まんがでわかる！

# 丸山薫さんと詩

丸山薫さんは、豊橋市立八町小学校、愛知県立第四中学校(今の時習館高校)に通っていました。

## 豆知識コーナー

丸山薫さんが戦争中に疎開していた山形県の西川町岩根沢には丸山薫記念館と詩碑があり、子ども向けの詩の賞、「青い黒板賞」が実施されています。

# 詩を読んでみよう！

丸山薫さんが作った詩を読んでみよう。どんな場面かな、どんな気持ちかな、想像しながら読んでみよう。※読みやすくする為に、一部旧字体を新字体にしています。

## おさかなのめ

丸山 薫

おさかなの　めは、
なぜ　まるいの。

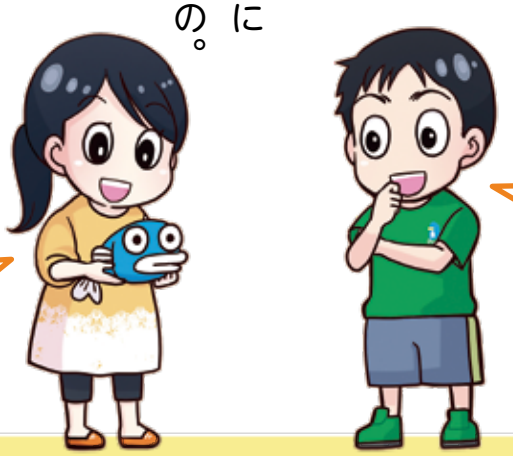
おさかなが
びっくりしてるからなの。

なぜ
びっくりしてるの。

おさかなの　めは、
かおの　りょうがわに
くっついてるからなの。

いちどに、
いつも、
ちがった　けしきが
みえるからなの。

だから　びっくりしてるの。
だから　まるいの。




## 金魚

丸山 薫

まるいガラス鉢の金魚は
たった二ひきでも
三びきに見え
四ひきにも見える
浮いたり　しずんだり
ふくらんだり　ちぢんだり
赤いひれも尾もはなればなれに
ひらひら　ゆらゆら
花びらのようにおどっている
眺めていると　水の中から
しずかな音楽がきこえてくる

丸山薫さんは全国55箇所の小・中・高校の校歌の詩を書きました。豊橋市では、岩西小学校、牟呂・豊岡・二川・中部中学校、商業・工科高等学校などの校歌を手掛けています。

# えんそく

リュックの中には
のりまきがあるよ
栗があるよ
キャラメルがあるよ
ゆで卵も二つあるよ

すいとうの水は
はんぶん飲んじゃったよ
ほらね　メダカでもいるように
ぴちゃ　ぴちゃ　はねてるよ

みんな　げんきに
歌って行こう
明るい野のみち

あっ　だれかのシャッポから（※シャッポ＝帽子）
はたおりがとんだよ（※はたおり＝キリギリス）
きら　きら　光って
すすきのほにとまったよ

丸山　薫

# 波

遠い沖から走ってくる波
走ってきて　かけよってきて
よいしょと砂に身を投げる波
海の重みを投げつける波
投げつけて　笑いくずれて
あははと　あははと　笑いくずれて
砂をころがり逃げていく波
またくるために逃げていく波
波　波　波　波
いくつも波
かさなって波

波　波　波　波の
くり返しは
どんどん波が押し寄せて
くるみたいだね。

波が走ったり笑ったりする表現は面白いね。

丸山　薫

豆知識コーナー

豊橋市歌は豊橋市市制50周年の際に全国から歌詞を募集し、その歌詞の補詩を丸山薫さんがしました。また、豊橋まつり音頭の歌詞も書いている郷土の詩人です。

# 銀の輪を連ねて

銀の輪を連ねて
タンポポの堤を走れば
春はぶつかる
僕らの顔に
わたしらの胸に

くる　くる　きら　きら
きら　きら　くる　くる

君のハミングも
僕の口笛も
風をくぐって
たちまち光のうずになる
みるまに光の炎となる

丸山　薫

『くる くる きら きら～』のところは読んでいてなんだか楽しい気持ちになるね。

『光のうず』『光の炎』のところは、春のキラキラした光の明るい感じも伝わってくるね。

# 蟻と雀

地めんを見れば
かならず蟻はあるいている
屋根をあおげば
きっと雀がとまっている

ぼくたち
人間の世の中に生れて
ぼくたちのことしか考えないが
地球は人間ばかりのものではない
もっとたくさんの生き物が
ぼくたちといっしょにくらしているのだ

思うことが成らず
さびしくなったら　不平が出たら
それら空や地めんの友だちを見よう
どんなに心がなぐさめられるか！

丸山　薫

丸山薫さんが先生をしていた愛知大学豊橋キャンパスには、丸山薫さんが作詞した学生歌「梢の歌」の詩碑が建てられています。また、高師緑地公園にも「美しい想念」の詩碑が建てられています。

# 詩を書いてみよう!

丸山薫さんは「詩とは連想だ」と言っています。
自分の興味のあること、好きなことから色々なものを連想して、詩を書いてみましょう。

## 1 テーマを探そう

自分の好きなものや好きなこと、興味のあること、思い出深い出来事などから、何について書こうかイメージしてみましょう。

## 2 テーマから色々なことを連想してみよう

1でイメージしたものから、色々なものを連想しましょう。
どんな場面かな?誰か人はいる?
音は聞こえてくるかな?色は?手触りは?
連想できるものなら何でも良いので、書き出してみましょう。

## 3 詩にしてみよう

詩に難しいルールはありません。
2で連想した言葉を色々繋げてみながら、自由に書いてみましょう。

### 表現のポイント

詩には、色々な表現の工夫があります。いきいきとした詩になるので、ぜひ使ってみましょう!

**比喩(たとえ)**
あるものを何か別のものに例えたり、人間に例えたりすることで、どんな様子か分かりやすく伝える
※『波』では、「走ってきて」とか「笑いくずれて」のように、波が人間のように表現されています。

**擬声語・擬音語・擬態語**
動物などの声、物の音、物の様子を表す
※『金魚』の「ひらひら　ゆらゆら」は擬態語、『えんそく』の「ぴちゃぴちゃ」は擬音語にあたります。

**反復(くり返し)**
意味を強めたり、リズムのよさを生む
※『銀の輪を連ねて』の「くるくる きらきら きらきら くるくる」を声に出して読んでみましょう。

その他にも、言葉の順番を入れかえて言葉の意味を強める「倒置」や行の終わりを体言(物や事の名前)で終わることで調子を強めたり味わいを残す「体言止め」(※『波』で何度か使われています)といった表現方法もあります。

# まんがでわかる！丸山薫さんと詩

## 帆の歌

暗い海の空で羽搏いてゐる
鷗の羽根は、
肩を廻せば肩に触れそうだ。
い海の空に啼いてゐる
鷗の声は、
手を伸せば掌に掴めさうだ。
掴めさうで、
が姿の見えないのは、
首に吊したランプの
瞬いてゐるせゐだらう。
私はランプを吹き消さう。
そして消されたランプの
燃殻のうへに
鷗が来てとまるのを待たう。

このまんがを描いた人

漫画家 **佐野 妙**（さの たえ）**さん**

豊橋生まれ、豊橋育ち、豊橋在住の漫画家。
現在、月刊まんがライフ（竹書房発刊）で豊橋を題材にした4コマ漫画
「だもんで豊橋が好きって言っとるじゃん!」を連載。1～3巻発売中。
その他、まんがライフオリジナル、まんがタウン、主任がゆくSPなどで連載中。

紹介文の内容は、発行時（令和3年7月）時点のものです。

令和3年7月発行　豊橋市役所「文化のまち」づくり課　まんが：佐野妙
☎0532-51-2874　Mail：bunka@city.toyohashi.lg.jp